平成２９年北毛地区体育授業研究会報告書

○日時：平成２９年１０月１３日（金）
○会場：渋川市立渋川西小学校
○単元名：ハードル走
○指導者　T1：蜂須賀里佳　教諭（６年１組担任）
　　T2：坂田佳浩　教諭（体育専科）

【実践発表ならびに授業研究会】

①実践発表に関して

まず初めに、授業者である坂田先生と蜂須賀先生より授業説明が行われました。坂田先生はハードル走の指導に関して、低学年は走って低い障害物を越える、中学年は段ボールやミニハードルをリズムよく越える、高学年は自己の目標の達成のためにスピード・フォーム・リズミカルに走ることを中心に行っていることや全学年を通して、ハードル走の際にはリズムをとることを意識させている、とのことでした。また、蜂須賀先生はハードルの好き嫌いが半々に分かれる学級の児童の実態に配慮し、段ボールやミニハードルを準備することで児童のハードルに対する恐怖心を取り除くとともにチェックカードを用意することで児童がつまずきを自分でチェックできるようにしたりと、意欲を高める工夫をした、とのことでした。

その後の全体協議では、以下のような質問や意見、感想が出されました。

○体力向上部について・・・４～６年が５０名程度参加している
○体力向上ルームについて・・・トレーニングルームのようなもの、利用時間等などについては今後検討していく
○ロング昼休みについて・・・清掃時間をカットし、４５分間の昼休みを設定
○体育のＴＴ授業の打ち合わせについて
　・・・なかなか時間をとれないのが現状ですき間の時間や放課後、授業後などに打ち合わせを行っている。体育専科から単元の計画表（打ち合わせシート）を担任に渡し、担任が具体的な授業の計画を考える。
○季節に応じた取り組みについて・・・冬期の室内での運動場所の確保として、体力向上ルームや体育館の開放を考えている。
○体力向上教室の外部指導者の決定について
　・・・今まで２年間実施。１年目は職員の知り合い、２年目は教頭の教え子の保護者のつてを頼って決定している。
○体育専科でなくても取り組めること
　・・・体育専科がいないとできないのはＴＴ授業のみ、今回実践したことは担任１人でも実施可能だと思う。
○現在校では体育専科だが、他校に移動し、担任になったときにどんな取り組みができると考えるか。
　・・・体育主任は低学年との関わりが少ないと感じるが、体育専科になると進んで関わることができ、それが学校全体の体力向上につながると考える。また、体育

専科が運動会では全体を把握することでスムーズに進めることができた。そういったことを他校で別の立場になったときも取り組んでいけるのではないかと考える。

②本時の授業に関して

実践発表についての全体協議後、続いて本時の授業についての授業研究会（全体協議）が行われました。そこでは、以下のような質問や意見、感想が出されました。

〇運動が苦手な児童もＴＴの声かけで楽しそうに取り組んでいた。ＴＴの連携がうまくできていた。

〇校庭でハードルを等間隔に早く設置する方法や工夫について

・・・本校は体育専科がいるから早く準備が可能。また、体育専科から担任に早く効率よく準備をする方法を担任に伝える、手本を１、２回示し、後は児童に行わせる、校庭に基準のポイントを打ち、後はライン引きで濃く印を付ける、ハードルメジャーの活用、などが考えられる。

〇ハードルの授業がスムーズに進んでいた。

・・・前単元の走り幅跳びの授業時にハードルの見取りをしておいたのが生かされた。準備運動のラダートレーニングなどは年間通して行っているので、児童は慣れているのでスムーズに取り組める。

〇体育館ならではの効果的な指導が行えていた。

〇養護教諭との連携について・・・栄養士による指導や学校保健委員会で姿勢の指導を行うなどの取り組みをしている。

〇準備体操時の職員配置がよかった。・・・専科は全体、担任は個々の児童を見て配慮するようにしている。

〇体育の授業時や本時のハードル走のグループ編成について

・・・同じ能力のグループ編成、そうではないグループ編成など、体育専科がいろい

ろなグループを組んでみて、それを担任に確認してもらうようにしている。ハードル走のグループについては他の児童に声かけができる児童を各グループに配置した。

〇児童が自分の姿を確認できるようにするための工夫について

・・・遅れ再生のビデオの活用や今後はタブレットの活用を考えている。

〇体育専科と担任との違いや大変さについて

・・・いろいろな学級の体育の授業を通して、担任の先生方の指導法が参考になる。

授業を行う上での調整の面では大変なこともある。

③指導講評

〇全体会の発表は、西小の基本理念を柱によくまとめられていた。児童の姿から、研究テーマが授業に生かされていると感じた。

〇体力向上教室では、講師の動きを先生方がまねをしながら児童に伝えていた。これも職員の指導力向上の成果の１つであると考えられる。

〇ロング昼休みの設定、陸上練習に職員が指導を行うなど、運動量を増やしている。日常的に子どもたちが生き生きと活動する場を与えている。職員全体が明確な目標のもと、研究に取り組めている。

〇本時の体育館でのハードルの授業は子どもたちが生き生きと取り組んでいた。担任の子どもたちへの声かけ、児童といっしょにハードルを跳ぶと行った子どもに寄り添った指導を行うことで、子どもたちが何に取り組み、何を気をつければよいかを気づけた授業になっていた。また、恐怖心を取り除くための場の工夫やカードの工夫などが教師の考えのもと、効果的に働いていた。苦手な児童への対応（手立て）は次期学習指導要領でも述べていることで、それを先取りしている点が素晴らしい。

西小学校トレーニングルーム

（文責　渋川市立渋川北小学校　浅井政則）